

学びの多様性・子ども達が主役の学校づくりを考えよう

日 時 令和5年2月8日（水）午前10時～午前11時（1時間）

場 所 北上市総合福祉センター 和室

参 加 者 市内で活躍されている皆さん

MIX LABO 代表 横濱志寿子さん

有志 佐藤美香さん、藤原正さん、久保田優子さん、佐々木護さん、
菊地航さん、藤原慶さん、高橋あゆみさん、高橋葵さん、
昆野世宇さん

北上市

市長、教育部長、学校教育課長、政策企画課員（※事務局）

以下、開催内容の概要を報告します。

はじめに

▼市長あいさつ

「教育大綱」について少し紹介します。「人づくりこそ地域発展の源、誇りをもって地域を担う人材の共創」という目標を掲げており、教育長はソフトの部分を、市長がハード面を担当します。かつて北上市は農業が中心であり、農家の次男や三男が働ける場所を作るため、一生懸命に企業を誘致してきた歴史があります。要するに「ものづくり人材」を育てなければならないということで、当時の黒沢尻町では町の予算の2倍の財源を投入して黒沢尻工業高校の校舎を建設し誘致しました。土地は住民から寄附してもらい、全ての財源を地元が負担しました。それだけ大変な思いをして、人材育成に力を入れてきた結果、北上市には人を育てる伝統がある、ということで、それを狙って企業が進出していると言っても過言ではないと考えています。そのような伝統があるということをぜひご理解いただいたうえで、これからも地域の将来にとってどんな人が必要か、ということを考えながら育てていかなければならないと思っています。自分達が将来「こんな風になってほしい」という思いを子育てに託して、お子さん達に託して、すくすくと育ててほしいという想いです。どうぞよろしくお願いします。

▼タウンミーティングを申し込んだきっかけ（横濱さん）

私は23年前、静岡県から引っ越してきました。当時、自分は塾戦争の中にいて、塾に行かないとついていけないような感じてした。自分に子どもが生まれたとき、「塾の無いところで子育てがしたい」と考えていたところ、ちょうど転勤となって

岩手で子育てすることができました。27歳の長男、24歳の長女と小学三年生の次女がいますが、子育ての仕方や性格は本当に3人それぞれ違います。次女に学校で何が一番辛いかと聞くと、45分間黙って座っていることや、コロナ禍で一度も席を合わせて給食を食べたことがないといったことだそうです。学校に行かせないで自宅で色々なことを経験させることも可能かもしれませんが、子どもは子ども同士で触れ合い、遊んで、話をして成長していくことが本質です。子ども達が自ら選択して学ぶことができる学校を公立でできないのかと思い、このタウンミーティングを申し込みました。

意見交換

■横濱さん：子ども達には、私達が「こういう風にやれば幸せになれる」と思っていたことがどんどん覆されてしまうような未来が待っているかもしれません。その時今の子ども達一人ひとりが自分の頭で考え、自分でコミュニケーションを図りどうやって解決していくか、普段の学びの中から取り組む必要があります。

今、自分の意見を言うことは「輪を乱すこと」「迷惑をかけること」だと言葉を飲み込んでいる子もいると思いますが、そうではなくて、どんどん自分の意見を言う、自分で考える教育ができれば、仮に食料危機が起きても解決していく子どもになると思っています。動物との触れ合いや大豆から味噌を作ることも勉強だし、動物を食べることは命をいただくことであるという経験も人として必要です。いろんなことが公立の小学校で出来ないかと思うと思っています。

■佐藤さん：私も理想的な小学校が市内にあったら、子ども達が楽しいだろうなと思います。学校と違う場所に通っても授業に出たことになれば、安心すると思います。今日はこういう風にすればいいよ、と教えてくれたら助かります。

■横濱さん：私達が学校法人やフリースクールをなぜやらないのかと言えば、私自身は学校をつくりたいわけではなく、やはり教育は専門の方、先生達に教えていただきたいし、フリースクールはどうしても料金が発生します。子ども達には平等に学ぶ権利がありますが、一方で、今まさにお家にいる子ども達が沢山います。そこでは毎日が戦いで、親子の世界はどんどん狭くなっていきます。

私がMIXLABOと名付けたのは、様々な分野の人が出会って学校という場を活用し、子どもたちに会って欲しいと思ったからです。子どもたちはそこで体験して、キラキラした大人達を見ることで、自分

もこういうことが学びたいと感じて欲しいですし、生きることの楽しさを教えていきたいと思っています。長野県の伊那市立伊那小学校がイメージに合うのですが、各クラスで動物を飼っていたり、子ども達が床で課題を解いたり、授業終了のチャイムが鳴った後も夢中で勉強したりして、学びを楽しんでいます。公立で実際にこんな風にできるのだとびっくりしました。北上市で今後子どもが増えると想定して、本当にそういう場所があればいいな、そのために協力するよ、という人はもっといると思います。

■学校教育課長：そのとおりであれば良いなと思う話を聞かせていただきました。

我々世代は、皆が同じであることが良いという形でやってきたと思いますが、今は一人ひとりが違って当たり前の時代になっています。

■横濱さん：現在、岩手県には特例校はありませんが、北上市につくろうという話がありますか。

■学校教育課長：そのとおり、現時点では特例校はありません。

今の小中学校には、学校で学ぶべき標準日数、学習指導要領があります。その中で総合学習の時間は、3～6年生で年間70時間、中学1年生は50時間、中学2～3年生が60～70時間です。ただし、先生は子ども一人ひとりの学びや課題に個別対応出来るかといえはそこまではできません。特例校を設置するとなれば、その枠を外して総合的な学習に特化し、色々な体験をさせるということですよ。

■横濱さん：生きづらさを感じている子ども達がいるという問題について、場所の必要性和プログラムの部分を充実させる必要性を感じます。プログラムに関しては、アメリカ等のチャータースクールのように、行政がお金を出して民間が運営する取組みが近いと思っています。特例校という制度を使うと自由にカスタマイズできるのでしょうか。

■学校教育課長：例えば週29時間の使い方として、国語の時間はぐっと抑えて、その代わり総合的な学習の時間を増やしますというようなプログラムを考えて、文部科学省に申請することは可能です。実は、北上市でも特例校のようなものをやったことがあります。外国語活動が始まる前まで、黒北小学校では週に1～2時間程度、英語学習を先進的にやっていました。

■佐々木さん：特例校の申請手続きを行うまでの間、総合学習の時間を一部我々に委託いただくことは可能でしょうか。我々でできる限り様々な学びを用意します。

■学校教育課長：総合的な学習のプログラムを決めるのは各学校です。総合的な学習

の時間を使って、どのような子どもを育てたいかという目標を学校で決めます。そして、ある程度大きなテーマを設けて、みんなで勉強します。30人の子どもに対して同数の先生がいるならば、子ども一人ひとりの多様な学びが可能かもしれませんが、現実には難しいというのが学校の立場です。

■ 藤原さん：不登校の子やいろんな問題がある子がその中で上手くやっていけるかというと、ちょっと問題がある気がします。子どもが喜んで通える環境を作ることも有効だと考えます。

■ 横濱さん：小学校の中に自由なクラスが1つあったとして、親がそのクラスへ通うことを許さなければその子は通う事ができません。親の説得が一番難しい。皆と同じことが出来る子どもとそうでない子どもと一緒に学ぶのはストレスがあるかと思います。自由にのびのび山に登ったり、土をほじったり出来るような場所の方が、子ども達にストレスがなく、親も少しずつ見学することで「いいかも」と思えるのではないのでしょうか。

■ 昆野さん：制度上、2つの小学校に在籍して両方に通うことは可能ですか。

■ 学校教育課長：不可能です。しかし、生涯学習センターの中にある「なないろ」という場所へ勉強のため出席すれば、指導要領上認めることが可能です。不登校とか学校に適応し辛いお子さんのために、好きな時間に来て、好きなことやって、好きな時に帰るという体制を整えています。支援員3名が常駐し、これをやりなさい、とは一切言わないで、子どもがやりたいことを見守り、何か聞かれば応えるようにしています。最近出てきた言葉では「個別最適化」と言って、一律ではなくできる子はどんどんやりましょう、できない子は振り返ってでももう一回やりましょうというような学びをこれからやっていくことになります。

■ 横濱さん：点数化できない能力を育てよう、意見交換して授業やっていこうとした時にコロナ禍になってしまいました。

■ 市長：特例校は、財源の確保や法律的な面から様々なことを検討する必要があります。

■ 学校教育長：最終的には、校長先生や保護者の賛同が必要です。特例校にするとすれば、それなりのエネルギーがかかりますし、様々なことをやらなければなりません。



感想（振り返り）

- あゆみさん：今日は現実的な話し合いですごいなと思いました。
- 葵さん：小学校の話でしたが、中学校でも同じような環境づくりを目指していけるように、皆さんの力で小学校から土台を作ることが出来れば明るいなと思いました。
- 藤原さん：皆さん同じような問題意識を持たれており、共有できて良かったです。例えば教員と生徒が 30 対 1 になっている状態で、個別の学びを求めることは難しいというようリアルな問題点については、学校の外にいる我々のような大人が関わることで解決できるところもあるのではないかと思います。
- 菊池さん：私自身、幼児教育に関わっていますが、子ども達が主体的に学ぼうとしたときに、子ども達がときめけるような場をこちらが用意してあげるのが大事だなと思いました。
- 佐々木さん：すごく前向きな意見交換ができて本当にありがたかったです。様々な提案をしていただきましたが、もし何か自分達が教育に関わるとしたら、自分達も学び直して、子ども達について理解を深めてからじゃないと逆に失礼になると同時に思いました。やるなら我々も本気になってやらないといけないと改めて思いました。
- 昆野さん：皆さん同じような思いで、同じ気持ちに関する問題をお持ちで、それを共有できただけでも良かったかなと思いました。
- 久保田さん：行政のことで知らなかったことがたくさんわかりました。みんなで力を合わせて子ども達のために考えるということがすごく素敵だなと思いましたし、市長に来ていただいてありがとうございました。
- 藤原さん：今日いろいろとお話を聞いていただいてありがとうございました。私としては子ども達の個性を尊重して、そして楽しめる学校に通えるような、そういう教育の場を提供することが一番大事じゃないのかなと思いました。よく世間では、「人間すべてが障がい者である」という、100%の人間はおらず、みんなに特徴があり、何かできないことがあるという立場で接していくところに人間の生き方があると言われております。そしてまた、その人の個性や自尊心を伸ばしてあげることが、大事な教育だと思っています。例えば北上市に転勤して来た方が、住環境や社会環境が良かった、また北上に来たいな、と思えるようなまちづくりを今後やっていただければ、ますます良いまちになるのではないかなと思っています。

 集合写真



 お問い合わせ先

北上市企画部政策企画課 行政経営係

電話：0197-72-8224

メール：kikaku@city.kitakami.iwate.jp